



映画監督

小津安二郎青春館

松阪市

家族愛をテーマとした展示



世界的に有名な映画監督・小津安二郎は、9歳から19歳までを松阪で過ごした。安二郎の父は、『江戸店持ち松阪商人』で、子どもは郷里で育てたいと母、兄、妹2人とともに松阪へ移住することになったのだ。人生において最も多感な青春時代をどう生きていたのか…興味が湧いてきた。



小津邸跡に建つ『小津安二郎青春館』は、青春時代の彼を偲ぶ小さな記念館だ。展示されている父への手紙ひとつ見ても、教育熱心と思われる母が、子どもたちに勉強を兼ねて父への手紙を書かせている様子が透けて見える。面白いのが、小学生時代の絵や作文だ。幼い頃からその才能の片りんを見せる、リアルすぎる描写。観察眼・表現力、美術的なセンスに優れ、同時にとんでもない集中力も持っていたことが、十分に伝わってくる。

「安二郎の映画は、家族愛をテーマにしたものが多いので、父にあてた家族の手紙や小学校時代に描いたデザイン画、日記などを中心に、安二郎本人の性格や家族との関係が分かるような展示にしているんです」と館長の佐野洋治さん。なるほど、確かによくわかる。

Story
紡ぐたび

映画監督 小津安二郎青春館

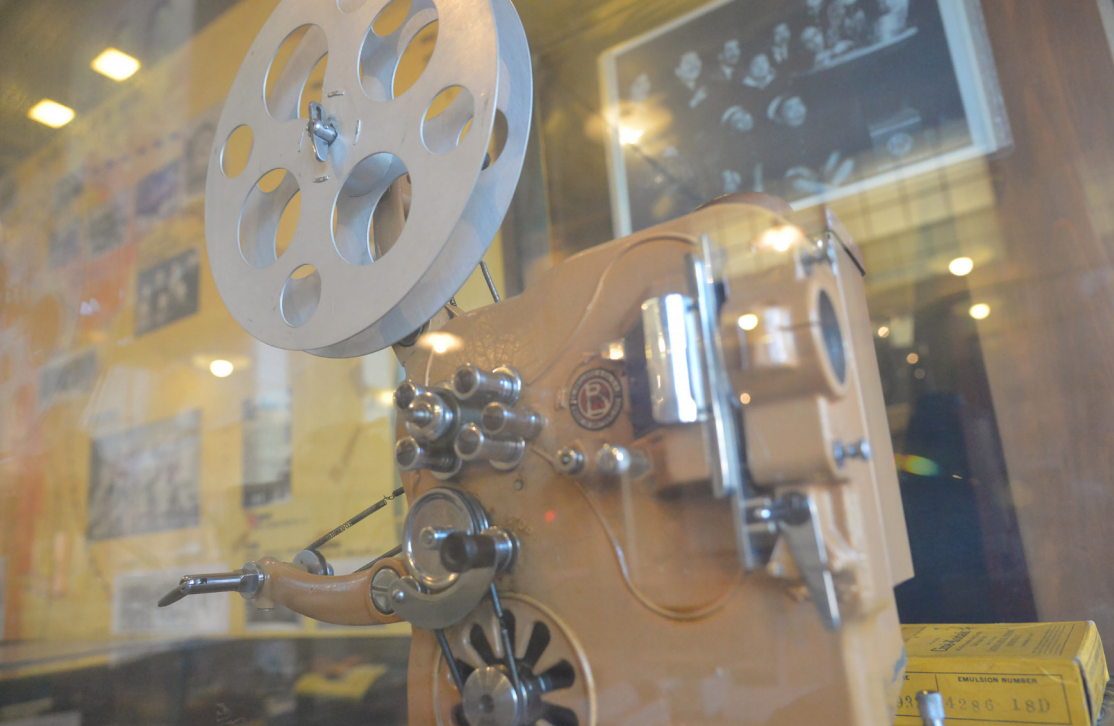
映画との
運命的な出会い



旧制中学時代 勉学に、スポーツに精を出す一方、厳しい校則にもかかわらずやんちゃな青春を謳歌していたが、5年生の1学期を終え、寄宿舎を追い出されて自宅からの通学になった。学校の目の届かぬのを幸いに好きだった映画(活動写真)にのめりこんでいく。

大正10年の日記は「映画日記」といえるほど映画に関する事柄で一杯だ。ハリウッドの俳優にファンレターをだしたり、後輩を集めて、身振り手振りをまじえて映画の話をする。映画にとりつかれたような息子に、優等生を期待していた母も悩んだに違いないと思ったが、映画界に入る時には断固反対していた厳父を安二郎の思いを知っていた家族が説得したそう。そんな家族がいたからこそ、彼は才能を開花できたんだと納得した。





世間的には、素行の悪い男子生徒だったかもしれないが、実は彼の一生を形作る時間をこつこつと積み上げていたわけで、何が幸いするか人生は本当に分からない。神様の気まぐれ、だとしたら、何という粋な計らいであらうか。

小津作品の楽しみ方

恥ずかしながら、今回初めて『東京物語』を見た。親子ゆえの無意識なる非情には思い当たる節だらけで、胸をえぐられるような気持ちになったが、同時に、時代はたてども色あせない小津安二郎の魅力も知ることとなった。

ただ、若い時にはきっと分からなかったような気がする。だから、折に触れて見直すのもひとつの楽しみ方だと思う。前とは違った思いも理解できるようになるその日を楽しみに、生きていくのもまた面白い。

他の作品も、じっくり見てみたいと思う。



映画監督 小津安二郎青春館

写真で紡ぐたび



小津安二郎が学生時代に通った映画小屋をイメージして作られた。丸いポストも絵になるように投函口が道路側を向いているのだとか。これ…入れづらい!!



安二郎の家のあった愛宕の周辺には、今でも歓楽街の面影がある。安二郎は早くから大人の世界に興味を持ち「ちょっとおませ」だったとか。



小津安二郎を知らない人でも大丈夫。安二郎の生涯をまとめたビデオを見れば、松阪との関わりや安二郎の生い立ちなどがよくわかる。



当時使われていた道具も展示して、リアルな生活をイメージできるようになっている。展示室は小さいが、貴重な資料が多く、内容はとても濃い。

♥ コンシェルジュからのおすすめのポイント!



小津安二郎監督は、9歳で松阪に住まいを移し、青春時代の約10年間でここで過ごしました。彼の永遠のテーマとなった「家族愛」は、松阪での生活や体験が切り離せないものです。青春館は、監督の思い出の品々や写真で当時は再現し、第二・第三の小津安二郎を輩出させたい、との思いから開設されました。映画ファンのみならず、どなたもぜひお立ち寄りください。



コンシェルジュ
館長 佐野洋治さん



スポット概要



■ スポット

■ 住所

■ 営業時間

■ 休館日時

■ 料金

■ 公共交通機関でのアクセス

小津安二郎青春館

松阪市愛宕町2丁目44番地

11月～ 3月 10:00～16:00
4月～10月 11:00～17:00

火～木曜日 及び 年末・年始 休館
祝祭日 開館

無料

JR・近鉄「松阪駅」から徒歩で15分程



このStoryを
スマートフォンでも
ご覧いただくことができます。

Storyで紡ぐたび ～もののあはれ中南勢ものがたり～

<http://story.kankomie.or.jp/>